

2025 年度 ニチキッズ秋田ひろおもて保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2026年1月5日（月）～1月30日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2026年2月16日（月）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	保育理念にある“おもいきり”というのはどのような事なのか常に自分たち自身で投げかけ合い、保育やSTEAM教育のみならずミーティングや研修にも組み込んでいった。学び合うことで職員の保育理念に対する意識が高まっていった。
子どもの発達援助	今年度の子どもたちの姿や成長など実情に沿った発達援助が出来るようにした。週ミーティングの中で話し合いの場を設け、一人一人にフォーカスを当てて行えるように等、常にその時の子どもの姿を大切に出来るような保育を次年度も継続的に行っていきたい。
保護者に対する支援	保護者との信頼関係構築に向け、保育を振り返りながら全職員で保護者対応が出来るように取り組んだ。園の様子だけでなく家庭での様子を聞き、子どもにとってより良い生活の場となるように連携を大切にした。
保育を支える組織的基盤	園内研修で、公開保育（全クラス）や写真（活動の様子の一場面）から子どもの気持ちを読み解く研修を取り入れる事で、職員間の多様な考えを集約し同じ方向で取り組むようにした。何事においても職種に関係なくコミュニケーションの大切さを実感した。

総評
今年度は新しい職員が加わり、様々な観点から保育（自園）を見つめ直す事が出来たと感じる。子どもの安全を考慮したマニュアルの重要性を知り、臨機応変にその場面にあった保育が出来るように取り組んだ。互いの保育、気持ちを認め合いながら何事にも“おもいきり”取り組める園であり続けたい。実際に様々な研修やミーティングに取り組む中で、保育のスキルアップは出来たが、評価や反省の中で“～できなかった”という意見のその先にある“～できなかったからどうするのか”を全職員で考えられる環境づくりをしていきたい。